

## 第8回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和7年1月23日（木曜日）16時00分から17時30分

開催場所：かるがも園

参加団体：かるがも園で業務に携わる支援者（法人理事、園長、保育士等） 5名

### 【子どもと保護者を取り巻く最近の状況について】

- ・最近の利用者の傾向として、両親ともにフルタイム勤務の家庭が増加している。数年前までは、かるがも園に毎日通う＝どちらかがフルタイムの仕事を諦めなければならない、またはパートで勤めざるを得ない、という状況だった。今は、フルタイム勤務の家庭が増えてきたため、かるがも園としても新たなサービスを始めている。通常は14時30分までの利用時間だが「日中一時支援」というサービスで、週3日は17時30分まで延長して預かっている。このサービスも人員体制をやりくりしながら週3日実施しているが、フルタイムで働いている場合は、残り2日はどうしようかという苦労があると思う。定員が5名利用で希望が多く定員をオーバーしそうなことが多い。最近では認定こども園・保育園と連携が取れてきて、認定こども園・保育園に在籍しながら、かるがも園にも通っている子どももいて、かるがも園が終わった後に認定こども園・保育園で預かってもらっていることもある。ただ、送迎（かるがも園→認定こども園・保育園）の際に、仕事ですぐに迎えにいくことができないことがあるので、ファミリーサポートセンターにお願いをして、なんとか送迎されている家庭もある。
- ・延長保育は、保護者の送迎が絶対であるが、かるがも園の立地として公共交通が不便な点がネックである。
- ・園のバスを利用する子どもは、バスに乗っている時間は1時間が限界なので、1時間で市内を回れるように、三田市内の広いエリアを2便に分けて送迎しているが、それでも回り切れていない。医療的ケアが必要な場合は看護師の同乗が必要であることや、そうでない場合も、運転手・バスの補助員だけでなく、園の職員も同乗しており、送迎コースの設定や人員配置に苦労がある。
- ・放課後等デイサービスを利用している人もいるが、希望された日に利用ができないので、保護者が苦慮している現状がある。仕事をしている保護者をサポートできる制度が必要だと思う。

### 【子どもや親の成長、各園へのサポートについて】

- ・かるがも園では、言語聴覚士や作業療法士、理学療法士が在籍しており、療育の中で二語文（例：これ好き。これ食べる。等）が出なかった子が、療育を通して喋ることができるようになったケースもある。喋ることでコミュニケーションが取れるということを理解し、友達ができたと感じる。言語聴覚士や作業療法士、理学療法士と保育士、看護師等が情報共有して、子ども一人一人に合わせてアプローチしていることがかるがも園の特徴で、子どもが成長できていると感じる。
- ・月曜から金曜まで園に通うこと自体が初めてのお子さんも多く、中には保護者として関わらず、目も合にくい子がいた。ここで毎日会って繰り返しアプローチし、職員と関係性を築くことにより、声掛けしたら反応してくれるようになったケースもある。子ども一人一人の違いを受け入れ、心に寄り添っていくことを大切にしている。
- ・ここには、幼く、言葉が出ない子どもや、立てない、歩けない子ども、人との関係性を作れない子どもも通っている。それが年間230日間の関わりの中でじっくり少しずつ成長していく。そして小学校に入って、年齢を重ねていくと、人と話ができるようになる。友達に興味を持つことなど、この時期に土台を作ること、それがかるがも園の大事な役割だと考えている。土台がしっかりしていると、急に成長することもある。病院から「障害がある」と診断された時は、保護者はつらい思いをされた

思う。その気持ちに寄り添って子どもの成長と一緒に悩んで前向きに取り組み、成長とともに喜んでいくことを繰り返し行っている。

- ・子どもは階段状に成長していく。いろいろ下積みがあってこそ、成長するものである。言葉が出るまでに、子どもが人とどう関わっているかが重要で、人を好きになっていたり、人に興味を持ちはじめたりすると、言葉が急に出てくることもある。
- ・かるがも園が実施している保育所等訪問支援サービスでは、かるがも園の訓練士も同行して市内の認定こども園や保育園を訪問している。保育士の方へ単に指導するのではなく、訓練士も一緒になって考えて、アドバイスをを行うことで保育士の方の精神的な負担軽減の効果も大きく、とても喜ばれる。
- ・ここは「親と子が共に育つ場」である。子も親も、指導者も一緒に育つ、それを実践している場だと思う。三田市は他市に先駆けて早い時期から子への療育に取り組んできたからこそその積み重ねだと思う。
- ・子どもができないことを理解することは、保護者にとっても子ども本人にとっても大切なことである。「まだ歩けない、まだ一人で箸を持ってない」、「この子はこの子。まだできない、それでいい。」と、子どもの特性を理解し、適切な対応することで虐待も防ぐことができる。受容できると、子をかかわく思えるし、子どもに合わせることができ、優しくなれる。

### 【これからについて】

- ・かるがも園ほど手厚くすることは難しいと思うが、認定こども園や保育園でも、子ども一人一人に合わせた関わり方が少しでもできればより良いと考えている。認定こども園や保育園も人員の体制もあるので難しいと思うが、そうなればもっと子どもの成長により良いと思う。
- ・隣のさんだ子ども発達支援センターでは、かるがも園を卒園して小学校に通っている子を対象に個別訓練を実施している。卒園生だけでなく、保護者も来ることができる場なので、別々の小学校に通っている保護者にとって、とても良い情報交換の場になっている。放課後等デイサービスも始めたので、利用料の負担が少なくなるので、利用しやすくなると思う。
- ・地域の一般的な居場所、例えば子ども食堂などへ行きやすいような雰囲気になればいいと思う。ただ、運営側で人手が必要となるため、地域の元気な高齢者がボランティアで関わってくれるといいと思う。専門的な療育も勿論必要だが、地域で過ごせる居場所も必要である。小学校の登校班で登校ができなくて、保護者が個別に送迎している子どももいる。そういった場合に、通学ボランティアなどをうまく活用することができればいいと思う。

### 【その他】

- ・大人になってコミュニケーションに課題があることが分かるケースもある。会社で管理職になり、部下とのコミュニケーションが上手くできないことがストレスになって、離職や家庭内暴力につながっているケースがある。三田市は、幼少期からの早期の取り組みにより、こういったことを防止できているのではないかと思う。
- ・職員もストレスを受けるが、職員間で話を上手に聞き、発散しながらやり繰りしている。

### 【要望について】

- ・30人分の給食を調理しており、材料費の一部を給食費として保護者に負担してもらっているが、実際にかかる費用との乖離が大きく不足分をカバーするためのやり繰りが大変である。また、園だけでなく、保護者の中でも自己負担分を払うことが苦しい家庭もあるので、経済的に負担が大きい家庭だけでも支援があればありがたいと思う。

### 【主な意見を受けて（市長から）】

- ・本日、子どもを取り巻く状況・課題・支援者の想いを聞かせていただいた。
- ・個々に様々な事情を抱えた子どもへは、個別に対応していくことが大切だと考えている。こうして本日伺った話について、私自身が機会を捉えて点と点を結びつけて、支援に繋げていくことができるようにしていきたい。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。